

News Letter ニュースレター

2018.10 vol.110



特集○名古屋城本丸御殿 未来へつなぐ復元事業

調査研究

隣は何をする人ぞ～広域的なまちづくりのススメ～

まちづくり支援

「まちづくりを知ろう！楽しもう！」 まちづくりびと講座

まちづくり来ぶらり

「文化のみち 二葉館」

名古屋城本丸御殿 未来へつなぐ復元事業



藩主との謁見を待つために通される別名「虎の間」。金地の障壁画「竹林豹虎図」が見る者を圧倒するが、良く見ると親子がいたり表情もユーモラス。

よみがえった 近世城郭御殿の最高傑作

近世城郭御殿の最高傑作「名古屋城本丸御殿」を今によみがえらせる、10年に及ぶ壮大な復元工事がついに完成、公開が始まりました。

名古屋城本丸御殿は、1615年（慶長20）に、初代尾張藩主徳川義直と春姫の御座所として造られ、尾張藩の政治の場となります。その19年後の1634年（寛永11）、三代将軍家光の上洛に合わせて当時の技術と贅を極めた上洛殿を新築。そびえる天守閣の膝元に壮大な御殿が広がりました。1930年（昭和5）には天守閣とともに城郭として国宝第一号に指定されましたが、太平洋戦争の空襲により1945年（昭和20）、すべてが焼失しました。

「御殿」の美が凝縮された空間

「御殿こそ城の真髄」と言うのは名

古屋城総合事務所の吉田祐治さん。そこには近世の建築、美術、工芸などさまざまな要素が凝縮され、武家の政治や暮らしぶりを読み解く手がかりがあると語ります。さらに「名古屋城本丸御殿ほど史実に忠実な復元はない」とも。細部にわたって再現された障壁画、天井、欄間、飾金具などが格式ある部屋によってどう変わっていくか、ぜひ見てほしいと言います。その規模か

ら京都の二条城にも匹敵する本丸御殿は、復元によって400年前の姿を現し、今を生きる人々に、「御殿」への理解を深める機会を与えてくれます。その奥深さは、何度訪れても人々を感動させてくれることでしょう。

正確な復元ができた理由

なぜ名古屋城本丸御殿は正確な復元ができたのでしょうか。その理由は



唐派風の美しい屋根は柿葺（こけらぶき）。伝統技術を受け継ぐ屋根職人の技。



正確な復元を実現させた史料
上から金城温故録、ガラスの乾
板写真

名古屋城本丸御殿 未来へつなぐ復元事業



昔の撮影技術者の並々ならぬ情熱を感じます」と名古屋市のインタビューで語ったのは、1992年から本丸御殿の障壁画の復元模写に取り組む加藤純子さん。400年前の絵師たちの情熱が、記録として残そうとした技術者を受け継がれ、今、模写する人々のインスピレーションをかき立てています。

そして障壁画の実物。名古屋城が焼け落ちる数か月前に、当時の名古屋市の職員たちが1049面の襖絵や天井絵を取り外し、戦火を逃れるべく疎開させていました。そこには「守らなければ」という必死な思いがあったにちがいありません。その結果、名古屋城の障壁画は、まとまって現存する御殿障壁画として重要文化財に指定され、今、本丸御殿の正確な復元への道を開いたのです。

文化を未来へつなぐということ

記録を残した人々の誠実な仕事、伝統技術を今に受け継ぐ職人の技、人々の名古屋城への思いに支えられて実現した本丸御殿の復元事業。それは

「完成して終わり」ではなく、次の百年、千年に継いでこそ価値のあるプロジェクトとなります。伝統技術や文化をどう未来につなげるのか、文化財をどう守っていくのか、名古屋城本丸御殿は問いかけています。

天井で見る部屋の格式
上:折上げ小組格天井(表書院上段之間)
下:彩色された水墨の山水図に蒔絵の仕上げ(上洛殿上段之間)



未来へつなげる森づくり

徳川家康が、初代尾張藩主、義直に与えた広大な木曽の山々。尾張藩は御用林としてその美しい木曽ヒノキの山林を守ってきました。それは、400年の年月を経て受け継がれ、長野県木曽地域、岐阜県中津川市一帯は、日本有数の木曽ヒノキの産地となつたのです。

本丸御殿の復元でも、この地の木曽ヒノキが多く使われ、御殿の柱は「斧入れ行事」を行って切り出されました。豊かな森を受け継ぐことは、本丸御殿を未来へつなげることです。そのために、2008年から、10年間で1万本を目標にヒノキや広葉樹を植える「市民の森づくり」事業を実施しています。



市民の森づくり事業 植樹風景

豊かな森林資源が
本丸御殿を支えています



隣は何をする人ぞ ～広域的なまちづくりのススメ～



なぜ広域？

秋深き隣は何をする人ぞ。これは有名な松尾芭蕉の句で「隣の人は今何をしているのかな？」とお隣さんを気にしているものです。ここではこの句をまちづくりになぞらえて考えてみます。

まちづくりは、基本的に市町村の単位で計画などが作られます。しかし、市町村の境界で土地が切れているわけではなく隣の市町村へと続いていると、皆さんも通勤や通学などで市町村の境界を超えて行き来をされていると思います。もっとお隣さんを知ってまちづくりを考えたいところですが、一目で自分とお隣さんの情報がわかるような手立てがありません。

そこで、どうしたらいろいろな市町村の情報を共有して使えるのかを減災まちづくりの取り組みを通して考えてみました。

みんなで考えよう

広域データの必要性やどのようなデータがあるといいのかについて、愛知県内の行政担当者の皆さんとワークショップを行いました。テーマは、施設配置（市役所、病院、福祉避難所）の検討です。名古屋市を東と西に分け（上図）、自分の市の情報しかない場合と、隣市の情報がある場合とまちづくりの考え方による差が出るかを疑似体験しました。

この際、まちを俯瞰的に把握してもらうため、名古屋大学減災連携研究センターの協力のもと、会場の床に広げた地図にプロジェクターで情報を映し出す手法をとりました。

結果は、与えられる情報が異なることで、判断（この場合は施設配置）が異なることやまちづくりの施策検討を行う際にはその前提条件となる情報を広く集めることが必

要であることがわかりました。

一方で、自治体間で情報共有するまでのシステム・コストの課題もあることから、広域共有化することの意義についての認識を高めていくことも必要と考えます。

まちづくり情報システム (ISM)の可能性

情報を集めるひとつの手段として、現在、名古屋大学減災連携研究センターと名古屋都市センターが共同開発した「まちづくり情報システム」という、地図情報を活用した情報提供ツールがあります（<http://nui-mdc.jp/>）。まちの基本的な情報（地図（過去・現在）、標高、航空写真、人口、ハザード、まちの写真など）を掲載していますが、限られた地域の情報となっています。広域的なまちづくりに活用してもらうためにも、少しづつでも掲載地域を広げていきたいと考えています。

広域的な視点でのまちづくりは、「自分以外」を意識し、お互いの事を知り合うこと。

まずは「隣は何をする人ぞ」からはじめませんか？



地図の上で現在の状況を見ながら検討



東西それぞれに考えた結果を地図に配置して全員で議論

平成29年度 調査研究報告書



名古屋都市センターの研究成果をまとめた報告書が完成しました。

詳しい内容は、ホームページ(<http://www.nup.or.jp/nui/>)をご覧ください。

一般研究

- 名古屋市における高齢化による世帯の消滅と市街地への影響について
- 人口減少時代におけるグリーンインフラの活用方策について
- 中川運河から創造する産業活性化に向けた新たな仕組みについて
- 集約連携型まちづくりを視点とした土地区画整理事業地の比較に関する研究
- 名古屋市におけるコンクリート舗装の考察
- 道路の利活用によるまちの魅力向上について
- 緑のまちづくり推進に係る将来目標について
- ～次期緑の基本計画の策定に向けて～

NUIレポート

- 名古屋市における広域連携行政推進に向けたまちづくり関連データ活用可能性
- ～名古屋大都市圏減災まちづくりの取組みを通じて～
- シェアード・スペース 生成発展と変遷

共同研究

- 提言 名古屋三の丸地区再整備の今後の展開に向けて～ポスト・リニア時代の核心を展望する～
(公益財団法人中部圏社会経済研究所との共同研究)



【まちづくり支援】

「まちづくりを知ろう！楽しもう！」 まちづくりびと講座

今年で14年目の 「まちづくりびと講座」

「行政」、「自治会」、「NPOやまちづくり団体」などのまちづくりにかかわる組織、そこに加わる「個人」、住民主体のまちづくりの担い手を育てることを目的として、平成17年に講座はスタートしました。名古屋都市センターでは、講座の受講生で、まちづくりに関心を持ち積極的に取り組む人を「まちづくりびと」と呼んでいます。

30年度は、「入門編」と「実践編」に分け、まちづくりの担い手を知り、受講生自身が「まちの中で何をしたいのか」を考え活動を進めていくために必要な「コミュニケーションのスキル」についても学べる内容で開催しています。

参加することで 「得られること」って？

7月に開催した「入門編」では、10代から70代まで幅広い年代が受講し、年齢や社会的立場も違う、日ごろ接する機会の無い人と話し合えたことが新鮮で「世代間の交流が持てて参加してよかった」と多くの受講生から感想を頂きました。

この秋冬に開催される「実践編」では、活動中の方から想いや苦労を聴き、受講後の活動や地域への参加につなげ、継続できるようにフォローを兼ねたプログラムで開催します。

講座に参加することで、「まちの中でやりたい事が見つかる」、「仲間や友人が増える」など、「人とまち」の新たなつながりが得られますよ。

時代に必要とされる 「まちづくりびと」

「まちづくりびと」には、団体を立ち上げた人、団体に入り縁の下の力持ちで働く人、地域の行事や自治活動に積極的に参加するようになった人など、いろんなまちへの関わり方を見つけ、それぞれの人が生き生きと楽しく活動されています。

デジタル化により個人の利便性はどんどん進んでいますが、地域のコミュニティや助け合いが希薄になるほど、経験や積極性からまちづくりの担い手となる人材は重要になっていきます。皆さんも、自分の好きなことワクワクすることを、まちの中の誰かのために、楽しみながら始めてみませんか。



「アイスブレイク」ってご存知ですか？写真是、お互いの親近感を高め、話合いを活発にするために、楽しく自己紹介を行っている様子です。



入門編受講生の
皆さん。笑顔で
記念写真。



「まちづくりにつ
いてのイメージ」を
グループでまとめて
発表しました。



昨年度の受講生で10代
の牛田さんと奥村さん。
まちづくりびとの協力を
受け、今年の夏に中高生
の実行委員で「子どもの
まち」イベントを中川区
で自主開催しました。



まちづくり来ぶらり

第
77
号

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書などを収集しています。



文化のみち 二葉館

日本の女優第一号といわれる川上貞奴と、電力王とよばれた福沢桃介が暮らした邸宅です。約2500坪の敷地に建てられた和洋折衷の建物は、その斬新さと豪華さから「二葉御殿」とよばれ、財政界人や文化人が集うサロンとしての役割も果たしていました。

現在の場所への移築復元工事が始められたのは、2000年（平成12）2月です。移築復元にあたっては、特徴的な外観や社交場であった大広間を再現するという点から、創建当時の姿に復元することとした。また登録文化財の登録を目指し、創建当時の部分はできる限り解体保管材を使用する、改築時に転用された部分はできる限り元の場所に戻す、当時の使用場所が不明である保管材もできる限り使用する、創建当時の材料や技術を再現するという4つの方針が掲げられました。

5年の歳月をかけて完成・開館した旧川上貞奴邸は、2005年（平成17）2月、文化のみち二葉館（名古屋

市旧川上貞奴邸）として甦り、国の登録有形文化財に登録されました。

ひときわ目立つオレンジ色の洋風屋根、ステンドグラスの光があふれる大広間、落ち着いた伝統的な和室－東西の文化が融合した建築物は、名古屋城から徳川園にいたる「文化のみち」の拠点施設となっています。館内は資料館として一般公開されており（入館料：有料）、貞奴の関連資料、郷土ゆかりの文学資料が保存・展示されています。

文化のみち 二葉館

名古屋市東区樟木町3丁目23番地

HP <http://www.futabakan.jp/>

◆参考文献◆

さらに詳しく知りたい方は、こちら

『東海の産業遺産を歩く』安部順一/著 2013 (Sc-7)

『日本のステンドグラス 宇野澤辰雄の世界』

増田彰久・田辺千代/著 2010 (If-7)

『日本近代建築大全 西日本篇』米山勇/監 2010 (Id-3)

『東海 歴史を巡る 近代化遺産ベストガイド』

産業遺産探訪倶楽部/著 2008 (Se-9)

『あいち建築ガイド』柴田直美/編 2013 (Se-3)

『愛知県の近代化遺産』

愛知県教育委員会生涯学習課/編 (2C40-2005)

『ひがし見聞録』東区制100周年記念事業

実行委員会/編 (2B21-2008)

『旧川上貞奴邸復元工事報告書』

伝統技法研究会/編 (2B18-2005)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『描かれた都市と建築』

著者：並木誠士/編
出版社：昭和堂
請求記号：Pb-ナ



古今東西の画家が描いた都市や建物に込められた意味を探った本書では、10の論文を紹介しています。日本からは、寺院や京都の風景、西洋からは、中世の建築図や地図などを扱っています。これらの論文を通して、描かれた都市や建築から隠された意味を探ることで、絵画の違った楽しみ方ができるでしょう。

『町でよく見る記号とマーク 気になる記号とマークの図鑑』

著者：WILLこども知育研究所/編著
出版社：金の星社
請求記号：Ld-ウ(児童書)

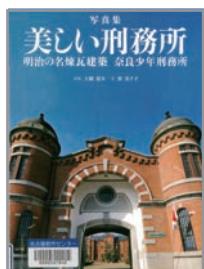
町を歩くとたくさんのマークを見かけます。身のまわりにあるマークはひとつひとつ意味と役割を持っています。よく見るけど意味がわからないマークはありませんか？この図鑑では、さまざまな記号とマークに託された役割やデザインの意図を丁寧に解説しています。気になるマークを調べてみてはどうでしょう？



『写真集 美しい刑務所』

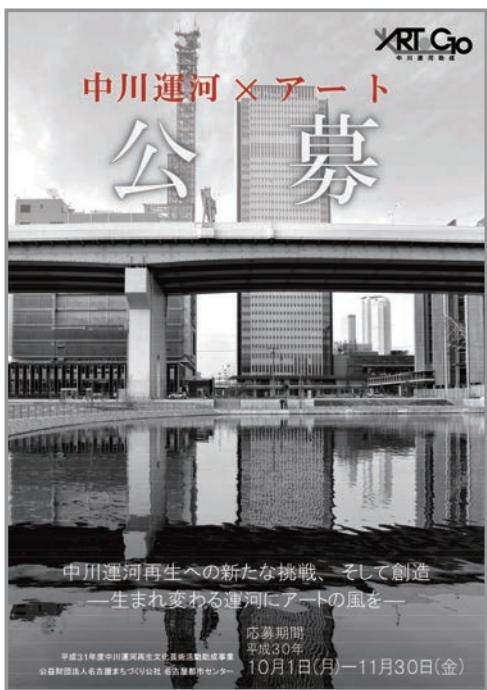
明治の名煉瓦建築 奈良少年刑務所
著者：上條道夫/写真、寮美千子/文
出版社：西日本出版社
請求記号：Id-カ

老朽化のため2017年3月に閉鎖された奈良少年刑務所は、2020年に監獄ホテルとして生まれ変わります。古都奈良に溶けこんだ美しい西洋建築は、監獄として100年以上の歴史を持っています。ありし日の奈良少年刑務所の姿を映した写真是静謐な美しさにあふれています。地元住民や、関わった人々とのエピソードも紹介されています。



平成31年度

中川運河助成ARToC10(アートックテン)の募集



名古屋都市センターでは、中川運河「にぎわいゾーン」の魅力向上を目指し、中川運河を舞台とする市民交流・創造活動につながる、アートへの助成を行います。

中川運河の「場」を活かす斬新な発想と実験的な取り組みにより、「シビックプライド(街への誇り)」を地域に育む創造的なアートを募集する「プロジェクト部門」と、プロ・アマ問わず全ての人がアートでチャレンジし、市民や地域の方々の運河への関心を高めるようなアートを募集する「トライアル部門」での募集を行います。多くの方のご応募をお待ちしております。

※アート…作品発表やワークショップ、イベントの開催などの活動

《助成金額》

- プロジェクト部門 最大300万円
- トライアル部門 最大50万円

応募は、どちらかの部門に対して1提案のみ可能です。

《応募できる方》

東海三県(愛知・岐阜・三重)に在住または在勤、在学する者、またはその者を構成員に含む団体。(代表者は20歳以上であること)

《応募受付》

11月30日(金) 17時まで 場所:名古屋都市センター13階

応募方法など詳細は名古屋都市センターHPをご覧ください。

<http://www.nup.or.jp/nui/human/nakagawa/index.html>

※この助成事業は、「中川運河再生計画」(平成24年10月名古屋市・名古屋港管理組合策定)の趣旨に賛同されたリンナイ株式会社の寄付を活用しています。

2

「都市の模型」を使った フォトワークショップの開催

名古屋都市センター自主企画展「空から見た名古屋の歴史」関連企画として、8月18日(土)に、まちづくり広場の「都市の模型」を使ってフォトワークショップを開催しました。

名古屋で活躍するプロカメラマン宮田雄平さんに撮影のコツを教えてもらいながら、それぞれが持ってきたカメラやスマートフォンで思い思いに名古屋市内の模型を撮影しました。

参加者からは、「普段ジオラマを撮影することがないのでとても楽しかった」という声や「普段見ている限りでは名古屋駅も名古屋城もどちらも大きく感じるのに、空からの視点だと大きさの違いがわかって面白かった」という声が聞かれました。



3

名古屋都市センターFacebookで 最新情報をチェック!

名古屋都市センターでは、公式Facebookページを開設しています。センターで行う各種イベントや展示のお知らせのほか、まちづくり団体の活動紹介、センターで行っている調査研究の最新情報など、名古屋都市センターに関するさまざまな情報を発信しています。

Facebookページの「いいね！」を押してファンになると、名古屋都市センターからの情報が届きます。興味関心のある方は、ぜひ、名古屋都市センターのFacebookページをチェックしてみてください。



～メインが選べる人気のランチ～ エスパワール ¥3,000

30Fスカイレストラン「スターイト」

- ランチ 11:30a.m.~2:30p.m.(土・日・祝11:00a.m.~)
- ディナー 5:00p.m.~9:30p.m.(L.O.8:30p.m.)

※写真はイメージです。※税金・サービス料込。

ANA
CROWNE PLAZA
HOTEL GRAND COURT NAGOYA

〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1 www.anacrowneplaza-nagoya.jp

ご予約・お問い合わせ Tel.052-683-4702 (スターイト直通)





加藤清正
尾張名所図会

名古屋城築城の勇壮な見せ場

名古屋城建設の際、加藤清正(1562~1611)が片鎌槍と軍扇を持ち、木遣りを歌って、大きな石を運ばせている様子です。同様の絵が『尾張名陽図会』にもあり、どちらも「続撰清正記」の記事に挿絵を描いたものです。

熱田の宮で陸揚げした大きな石を毛氈(もうせん)で包み、化粧をして着飾らせた美童を乗せて、家臣5、6千人が青い大綱を引いて名古屋城まで運んでいきました。見物人に酒肴や餅、豆腐、菓子などを配り、大いに盛り上がったようです。絵の中では荷車のようなもので運んでいますが、実際には修羅と呼ばれる木製の大型橇(そり)で運んだと考えられています。

石垣の普請は天下普請として加賀前田家をはじめ西国の大名20家に命じられ、丁場割は細かく分かれています。その中で加藤清正が担当したのは、大小の天守の基礎となる石垣(天守台)とそれをつなぐ橋台の石垣でした。天守台は高さが22mにもなり高度な技術が求められるものでしたが、1610年7月に石垣の基礎となる根石置きが行われ、10月には早くも竣工しています。



※上の絵は、原本を一部加工、着色しています。

篠島の矢穴石(名古屋能楽堂南広場)

清正が石垣の石を探ったという伝承が残る知多半島沖の篠島にあったこの石には、江戸時代に石を切り取ろうとして掘られた穴が今も残っています。

〈参考文献〉※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

『名古屋城石垣の刻紋』高田祐吉／著 名古屋城振興協会(Se-1)

『名古屋城 石垣刻印が明かす築城秘話』高田祐吉／著 名古屋市教育委員会(Sc-1)

『尾張名古屋の歴史歩き』大下武／著 ゆいぼおと(Se-1)

『尾張古図と浪越伝説』名古屋なんでも調査団／編 鶴舞中央図書館HP



公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>



利用案内○どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場 (展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【12階】まちづくりライブラリー

火～木曜日: 10:00～18:00

金曜日: 10:00～20:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

【休館日】

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始

(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

